

佐賀県における「地域おこし協力隊」制度を活かした地域交通への関わり方

佐賀県庁 地域交流部 さが創生推進課 暮らしのモビリティサポーター 木村瑠々花

問題提起	様々な立場の関係者が集まり「地域の移動手段」を検討する機会が全国で広がる中で、合意形成をサポートする“人材”が不足している
どんな人材？	行政の立場でも、地域住民の立場でも、交通事業者等の立場でもない、第三者の立場の人材

提案	総務省事業の「地域おこし協力隊」事業を活用。約3年間という任期の中、そのエリアに在住し、各関係者とコミュニケーションをとりながら地域交通の最適化を図る人材を確保する。 ※ただし受け入れ側の協働体制が必須
----	--

① 佐賀県の場合

県庁所属の地域おこし協力隊を10テーマ募集し、そのうちの1つが「暮らしのモビリティサポーター」です。

行政担当と3人1チームで全域を担当



② 役割のイメージ

行政の縦割りを超えて、“連携役”になることを意識



第三者の立場からサポート。最終的には地域の自立を促す。



③ 地域交通に関わる仕事の魅力

最適な地域交通の導入に向けて、基礎知識や経験に照らし合わせながら客観的判断力が必要。またその場の合意形成を図って場を進めていくことになる。一方で、関係者の意図を汲み取れる力やコミュニケーション力も欠かせない。ひとつの仕事で様々な引き出し力を培っていくことになる。交通分野初心者でも、“仕事の進め方”に関心があれば、きっと楽しい仕事です！

③ 活動紹介

基山町コミュニティバスの利用促進

高齢者の生活をサポートする生活支援コーディネーター（SC）と協働。フレイル予防・外出機会創出の観点から、SC自身がコミバス利用促進を自発的に行っている。現在は基山町SCの1名が「買い物・移動手段担当」と役割が付き、地域の区長や民生委員とコミュニケーションをとり、地域住民に地域交通をジブンゴト化してもらうことを目指す。

SC向け乗車体験会を実施
SCがコミバスをマスターする

SCがコミバス乗車体験会を4回実施。コミバスを利用したことのない運転免許返納者などが参加。

県内のSCが集まる研修会に数回登壇

参加SCから声をかけてもらい、他の地域に入っていく (実績：5地域ほど)

県庁所属だからこそ、事例から得たヒントをどう横展開するか意識している

その他、佐賀県内・県外で活動中

各市町の地域交通に日頃から乗車し、気づいた点を自治体の交通担当者にフィードバック。
【知る・気づく】

町内に配信されるTV映像に出演。コミバス車内の様子を撮影し乗車へのハードルを下げる。
【話す】

地域交通を身近な移動手段にしてもらえるよう、学生向けに話題提供を行う。
【話す・ジブンゴト化する】

県警主催の認知機能検査の機会にて、地域交通の説明や介護サービスの紹介を市町担当者に行ってもらおう。
【繋ぐ】

各エリアの交通担当と福祉担当をつなげてイベント企画したり、合同でニーズ調査を行う。
【繋ぐ】

住民主体の話し合いにファシリテーター兼アドバイザーとして月2回参加。
【伴走する】

④ 協力隊導入のサポートを行います

地域交通をテーマにした協力隊を導入したい自治体があれば、相談や募集サポートを行います！ご関心ある方はお声がけください。



SML佐賀
(佐賀県庁協力隊ページ)



暮らしのモビリティサポーター
Facebookページ